

2024 年度業務実績報告書

提出日 2025 年 1 月 15 日

1. 職名・氏名 助教・牧野 奏佳香

2. 学位 学位 博士（農学）専門分野 森林科学、授与機関 京都大学、授与年 2022 年 1 月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・食農環境・文化概論（通年 4 単位）1 年次（7 月着任のためシラバスに自身の名前の記載はないが、後期のみ補助教員として担当）
②内容・ねらい 食えることと農業は本来密接につながっており（食農）、それを取り巻く環境・文化はこの食農と切り離せない存在である。これが本来の「農」であり、「農」とは総合知である。この理念に基づき、実務経験者から実務や背景を直接学ぶことで、「農」についての自身の考えを深める。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・授業毎に授業内容に応じたレポートを提出させ、習熟度を高めた。 ・学期末ごとにまとめのレポートを提出させ、これに基づいた面談をすることで、学生の理解度の把握と理解の促進を図った。 ・学年末には「農」に関する意見論文を執筆・提出させることで、「農」についての学生自身の考えを深めさせた。 【ゲストスピーカー 13 人】 【フィールドワーク 0 件】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・食農環境実習 I（通年 2 単位）1 年次（7 月着任のためシラバスに自身の名前の記載はないが、後期のみ補助教員として担当）
②内容・ねらい 福井県内全域を学びの場として実際に「農」の現場を訪れると共に、あわらキャンパス内圃場を使って、農作物の栽培、農・海産物の収穫、加工、消費、および共同体活動を広く体験する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・授業毎にレポートを提出させ、学期末に面談を行って理解度の把握と理解の促進を図った。 ・学生の理解の助けとなるよう、適宜説明補助を行った。 ・学生の復習の材料となるよう、撮影可能な場所にて作業風景等の写真撮影を行った。 【ゲストスピーカー 14 人】 【フィールドワーク 22 件】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・食農環境演習 I（通年 4 単位）1 年次（7 月着任のためシラバスに自身の名前の記載はないが、後期のみ補助教員として担当）
②内容・ねらい 食農環境実習 I で体験したことについて各自で日誌にまとめ、教員に提出する。また、体験したことをより深く知るための情報収集の方法について指導する。さらに学生同士で対話して情報を共有し学び合う。それらの情報をもとにグループディスカッションを実施するための準備を行う。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・演習毎にレポートを提出させ、記憶の定着と理解の促進を図った。 ・学期末には1年の振り返りをさせ、面談にて理解度の把握と理解の促進を行った。 【ゲストスピーカー 14人】 【フィールドワーク 22件】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・総合農学（通年8単位）1年次 オムニバス形式（7月着任のためシラバスに自身の名前の記載はないが、後期のみ補助教員として担当）
②内容・ねらい キャンパス内の圃場で、年間を通じて実際に農作物を栽培し、収穫、加工、消費までを体験する中で、栽培技術、農作業機械操作技術、加工・調理技術、簿記技術を身に付けるとともに、農業と気象、土壌環境、他の生物との関係性を観察、理解し、実験計画法、土壌分析法、雑草・病害虫被害調査方法などを学習する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・授業毎に作業日誌を提出させ、実習内容の進捗を把握することで、学生の学習補助を行った。 ・学生自身に考えさせる時間をもたせることを心掛けた。 ・学年末には各自に作成させた MyFarm 報告書に基づいた発表をさせることで、作業計画や作業手順の効率性と有効性について検証させた。 【ゲストスピーカー 8人】 【フィールドワーク 23件】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・食農環境実習Ⅱ（通年2単位）2年次 オムニバス形式（7月着任のためシラバスに自身の名前の記載はないが、後期のみ補助教員として担当）
②内容・ねらい 食農環境実習Ⅰでの体験を基に、より高度あるいは現実的な（楽しい面ばかりではない）「農」を学習・体験する。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・適宜レポートを提出させ、学期末に面談を行って理解度の把握と理解の促進を図った。 ・学生の理解の助けとなるよう、適宜説明補助を行った。 ・学生の復習の材料となるよう、撮影可能な場所にて作業風景等の写真撮影を行った。 【ゲストスピーカー 15人】 【フィールドワーク 20件】
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 ・食農環境演習Ⅱ（通年4単位）2年次 オムニバス形式（7月着任のためシラバスに自身の名前の記載はないが、後期のみ補助教員として担当）
②内容・ねらい 食農環境実習Ⅱで学習・体験したことについて各自で日誌にまとめ、教員に提出する。また、体験したことをより深く知るための情報収集の方法について指導する。さらに学生同士で対話して情報を共有し学び合う。それらの情報をもとにグループ「農」のこれからについてグループディスカッションを行う
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 ・ディスカッションでは、各学生の考えを引き出しつつ、学生主体で進行させるよう心掛けた。 ・授業毎にレポートを提出させ、学期末に面談を行って理解度の把握と理解の促進を図った。 ・各学生の考えを基に、研究室分属に向けての個別相談をも実施した。 【ゲストスピーカー 15人】 【フィールドワーク 20件】

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

・植物保護学実験（後期 1 単位）3 年次（7 月着任のためシラバスに自身の名前の記載はないが、主担当として担当）

②内容・ねらい

植物の生育を支える環境（土壌等）の調査を行う実験を行い、その手法を身に着けるとともに、問題の認識と対策を考えることで、植物保護に関する関心と理解を深める。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

・実験の手順をステップごとに写真付きで詳細に説明した資料を配布し、実演もすることで、学生が理解しやすくなるよう心掛けた。
・配布資料には、結果を考察する際に参考になる文献や図表を掲載した。
・班で実験を行ったあと、実験結果について考察を行うレポートを個人で作成・提出させ、理解の促進を図った。

【ゲストスピーカー 0 人】

【フィールドワーク 0 件】

(2)その他の教育活動

内容

・課題探究アドバイザー：福井県立金津高等学校（2025 年 3 月 14 日）
第 2 学年課題探究活動の報告および第 3 学年における課題探究活動の計画等に対するアドバイスを行う。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【0本】
② 学術論文（査読あり） *1. <u>Makino, S.</u> , Tokuchi, N., Akaishi, D., Koyama, L. A., Komai, Y., Itaya, Y., Maung, N. L., Ishimaru, K., Oda, T., Shibata, R., & Numamoto, S. (2024). Citizen-participatory nationwide survey of mountain streamwater chemistry in Japan in 2022: Comparison of nitrate concentrations with the 2003 survey. <i>Ecological Research</i> . https://doi.org/10.1111/1440-1703.12465	【1本】
③その他論文（査読なし） *1. 牧野 奏佳香、徳地 直子、赤石 大輔、駒井 幸雄. (2024). シチズンサイエンスのチカラ ～市民とともに日本全国の山の健康状態を調査～. <i>総合誌 瀬戸内海</i> 88.	【1本】
④学会発表等 （ポスター発表） 1. 駒井 幸雄、 <u>牧野 奏佳香</u> 、Nay Lin Maung、徳地 直子、國松 孝男. 滋賀県全域の森林域における渓流水中硝酸態窒素濃度の現状と評価. 第 58 回日本水環境学会年会（福岡） 2024 年 3 月 6 日～8 日. 九州大学 *2. <u>牧野 奏佳香</u> 、徳地 直子、赤石 大輔、小山 里奈、駒井 幸雄、板谷 佳美、Nay Lin Maung. 日本全国における森林渓流水水質の空間分布. 第 135 回日本森林学会（東京） 2024 年 3 月 8 日～11 日. 東京農業大学	【2件】
⑤その他の公表実績	【0本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
【学外】 ・ 総合地球環境学研究所 実践プロジェクト（Sustai-N-able プロジェクト）（分担）2020 年 4 月 - 2027 年 3 月 ・ 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) (23K05316)（分担）2023 年 4 月 - 2026 年 3 月 【学内】 ・ 戦略的課題研究推進支援（和紙と林業の持続性）（分担）2024 年 4 月 - 2026 年 3 月	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
日本生態学会 会員 日本森林学会 会員	

5. 地域・社会貢献活動

①-3委員就任（市町村）

- ・北潟湖自然再生協議会（2024年7月～現在に至る）

委員として市民向けワークショップ（2024年9月8日、10月5日、11月16日実施）や自然再生協議会全国会議（2024年11月14日～15日実施）に参加し、北潟湖水質改善の方針について助言を行った。

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

大学・大学院案内 2026 冊子の作成 創造農学科担当

(3)学内行事への参加

- ・生物資源学部教員と福井県高等学校理科教員の情報交換交流会(2024年7月30日)
- ・創造農学科オープンキャンパス（2024年8月4日、10日）
- ・創造農学科収穫祭（ミニオープンキャンパス）（2024年11月2日）

(4)その他、自発的活動など